

# 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第223号	氏名	山口 竜亮
学位審査委員	主査	中山 浩次	
	副査	藤原 卓	
	副査	根本 孝幸	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、歯肉縁上プラークの TLR 2 および TLR 4 刺激作用と歯肉縁上プラークにより誘導されるサイトカインの産生量との関連と、同刺激作用と採取部位の歯周炎臨床指数との関連を解析したものであり、歯周病の病因を免疫学的に解明しようとする観点から目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>被験者から採取された歯肉縁上プラークの TLR 2 および TLR 4 刺激作用は、CHO 細胞由来 NF-<math>\kappa</math>B レポーター細胞(CHO/CD14、7.19/TLR 2)を用いて測定され高純度標品の活性との対比により標準化されている。また、縁上プラーク刺激によってヒト末梢血単核球が産生した TNF-<math>\alpha</math>、IL-6、IL-8 および IL-10 は ELISA 法により定量され、TLR4 刺激作用との関連が示されているが、さらに、サイトカイン産生抑制実験を行い、抗 TLR2 抗体、抗 TLR4 抗体、TLR4 アンタゴニストを用いて TLR4 刺激作用との関連を確認しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で得られた結果について、2 群間の比較は Mann-Whitney の検定を用い、相関関係については Spearman の順位相関係数を用いて解析された。その結果、縁上プラーク刺激によって誘導される TNF-<math>\alpha</math>、IL-6、IL-8、IL-10 の産生量は、TLR 4 刺激作用と正の相関を示し、歯周病臨床指数とも正の関連を示した。このことから、縁上プラークが TLR4 を介して誘導した炎症性および抗炎症性サイトカインが歯周組織の状態に影響を与えた可能性が示唆され、今後の免疫学的歯周病研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は歯周病研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(歯学)の学位に値するものと判断した。</p>			